



# DB アップグレードマニュアル

---

VVAULT DB Upgrade Manual (7 to 9)

<b>1</b>	DBをアップグレードする前の準備	5
<b>2</b>	DBをアップグレードする	15
<b>3</b>	警告・障害の解決方法	31

# はじめに

## 本文書のご利用にあたって

- 本文書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。
- 本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のもので、最新版の製品および製品サイトと文言やデザイン等が異なる場合があります。
- 本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。

## VVAULT DB Upgraderとは

「VVAULT DB Upgrader」は、VVAULT 7.16.x、7.17.xで使用しているDBデータ (PostgreSQL 8.4) をVVAULT 9.1.0以降のバージョンで使用しているDBデータ (PostgreSQL 10.3) にアップグレードするツールです。

詳しい手順につきましては本書の各章をご参照ください。

# 目次

<b>1</b>	DBをアップグレードする前の準備	5
1-1	動作環境の確認	6
1-2	アップグレードする際の注意点	7
1-3	VVAULT DB Upgraderのダウンロード	9
1-4	アップグレードの診断	10
<b>2</b>	DBをアップグレードする	15
2-1	アップグレード手順	16
2-2	アップグレード実行	19
2-3	VVAULT 9.1.0以降での復元インストール	24
2-4	VVAULTのアンインストール	27
<b>3</b>	警告・障害の解決方法	31
3-1	警告・障害 一覧	32



# 1 DBをアップグレードする前の準備

---

VVAULT DB Upgrade Manual (7 to 9)

1-1 動作環境の確認	6
1-2 アップグレードする際の注意点	7
1-3 VVAULT DB Upgraderのダウンロード	9
1-4 アップグレードの診断	10

## 1-1

## 動作環境の確認

CPU	Intel x86 / x64 互換プロセッサ (4コア / 8スレッド以上推奨)
対応OS	<p>PC OS Windows 10(64bit)</p> <p>サーバー OS Windows Server 2016(64bit) ※1 Windows Server 2012 R2(64bit) ※1 Windows Server 2012(64bit) ※1</p> <p>Windows Storage Server 2016(64bit) Windows Storage Server 2012 R2(64bit) ※1 Windows Storage Server 2012(64bit) ※1</p> <p>※1 ReFS形式でフォーマットされたストレージにVVAULTをインストールすることはできません。構成ストレージとして追加することは可能です。</p> <p>※ 2020年1月14日以降は Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 / Windows Storage Server 2008 / Windows Storage Server 2008 R2 に対応しておりません。</p>
メモリ	4GB 以上 (8GB 以上推奨)
ディスク容量	<p>300MB 以上の空き容量</p> <p>※ DBデータのアップデートには、各 DBアップグレード対象の使用容量以上の空き容量が必要になります。</p> <p>※ DBのレコード数によって必要容量が増減します。</p>
必要ソフトウェア	Microsoft .NET Framework 4.5 以降
対応環境	ドメイン (ドメインコントローラ、ドメインメンバ) ワークグループ

## 1-2

# アップグレードする際の注意点

VVAULT 7.16.x、7.17.xからVVAULT 9.1.0以降へのアップグレードする際の注意点は下記の通りです。

- ・2つのインスタンスを使用している場合、片方のインスタンスのみアップグレードを行いVVAULT 9.1.0以降を稼働させることは可能ですが、後から残りのインスタンスのみをアップグレードすることはできません。その際は、一度VVAULT 9.1.0以降をアンインストールし、両インスタンスのDBデータを再利用する復元インストールを行う必要があります。その為、やむを得ない場合を除き、全てのインスタンスを同じタイミングでアップグレードする事をお勧めします。
- ・バックアップを使用している場合、バックアップDBのアップグレードはインスタンスのアップグレードと同じタイミングで行ってください。
- ・アップグレード（診断）には、既存のDBが使用する以上のディスクサイズが必要になりますので、保存先のストレージには十分な空き容量を確保してください。  
(インスタンスのみアップグレードした場合、稼働後にバックアップとの整合性が取れなくなり、バックアップDBデータの再利用ができなくなります。)
- ・アップグレード（診断）に要する時間はサーバーのスペックに依存します。詳しくはナレッジベースで「VVAULT DB Upgrader」を検索してください。
- ・アップグレード（診断）を実行する際、対象のDBに関連するサービスを停止します。また、実行中はVVAULTの管理コンソールは使用できません。
- ・アップグレード成功後、VVAULT 7.16.x、7.17.xで使用するサービスは全て停止します。また「スタートアップの種類」は「停止」または「無効」となります。
- ・レプリケーションを使用している場合、VVAULT 7.16.x、7.17.xで使用済みのポート番号を「9.1.0以降」で設定すると、「7.16.x」「7.17.x」をアンインストールした後に再度設定し直す必要があります。
- ・アップグレードは中断しても既存データには影響しません。アップグレード開始時に停止するサービスを起動してVVAULTを稼働させることができます。起動が必要なサービスについては以下をご参照ください。

## 「スタートアップの種類」を「無効」から「有効」に変更するサービス

※インストールしている機能により表示されないサービスもあります。

- ・VVAULTBackupService2
- ・VVAULTDRBackupService2
- ・VVAULTDRService2
- ・VVAULTVirtualDriveService2
- ・VVAULTWebService

## 起動させるサービス

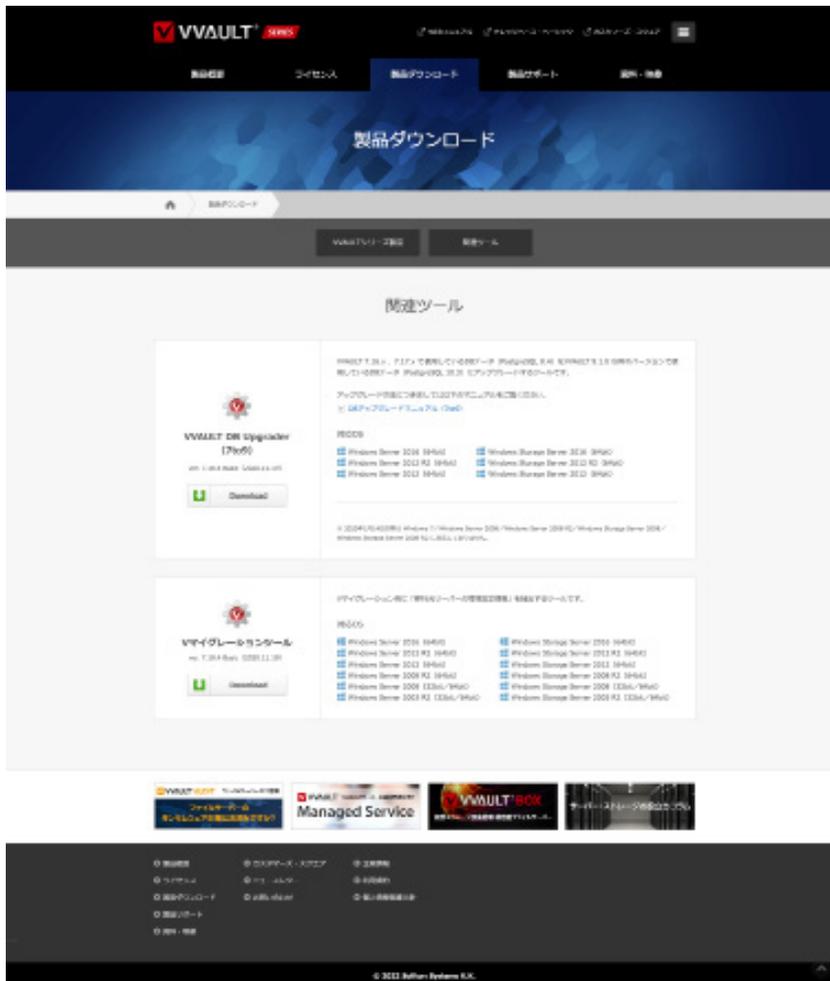
※インストールしている機能により表示されないサービスもあります。

- VVAULTBackupService2
  - VVAULTDRBackupService2
  - VVAULTDRService2
  - VVAULTVirtualDriveService2
  - VVAULTWebService
- 
- VVAULT 9.1.0 以降のスケールアウトドライブ機能を使用するには、「Datacenter」ライセンスが必要になります。

## 1-3

# VVAULT DB Upgraderのダウンロード

本製品をダウンロードするには、製品サイトの「製品ダウンロード」ページ (<https://vvault.jp/download/index.html#tools>) にアクセスし、ダウンロードしてください。



## 1-4

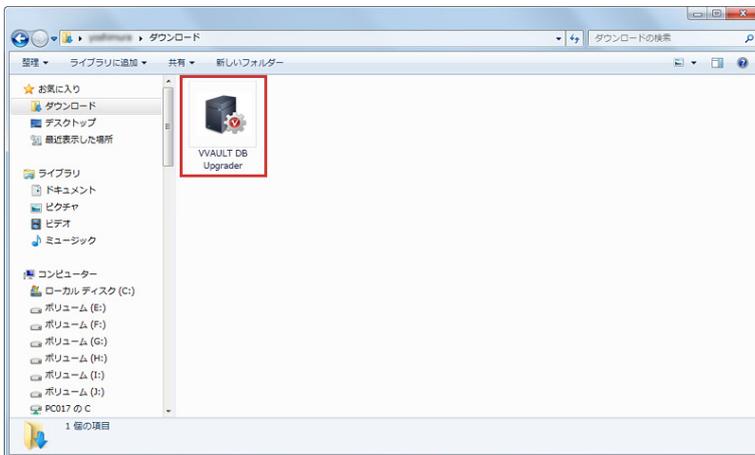
## アップグレードの診断

事前にアップグレード診断を行い、DBデータを正常にアップグレードできるか確認してください。

また、対象DBの選択画面で、使用しているディスクサイズおよびレコード件数が確認できます。この情報を元にアップグレードに要する時間を推測できます。詳しくはナレッジベースで「VVAULT DB Upgrader」を検索してください。

## 手順解説

① 本製品のVVAULT DB Upgraderを実行します。



## ⚠️ ご注意

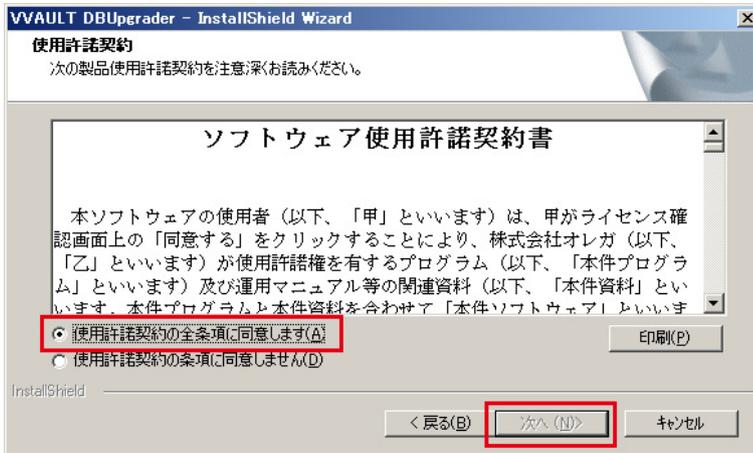
VVAULT DB Upgraderを実行した際、「Microsoft .NET Framework 4.5」がインストールされていない環境ではインストール画面が表示されます。本製品の動作に必要なソフトウェアの為、ウィザードに従ってインストールしてください。

② アップグレードのウィザード開始画面にて「次へ」ボタンをクリックします。

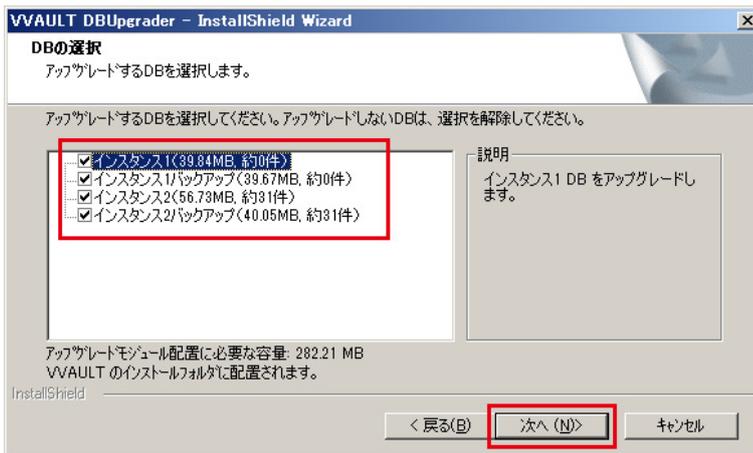


## 手順解説

- ③ 使用許諾契約を確認後、「使用許諾契約の全条項に同意します (A)」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



- ④ アップグレードする DB を選択し「次へ」をクリックします。



- ⑤ 確認ダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。



## ワンポイント

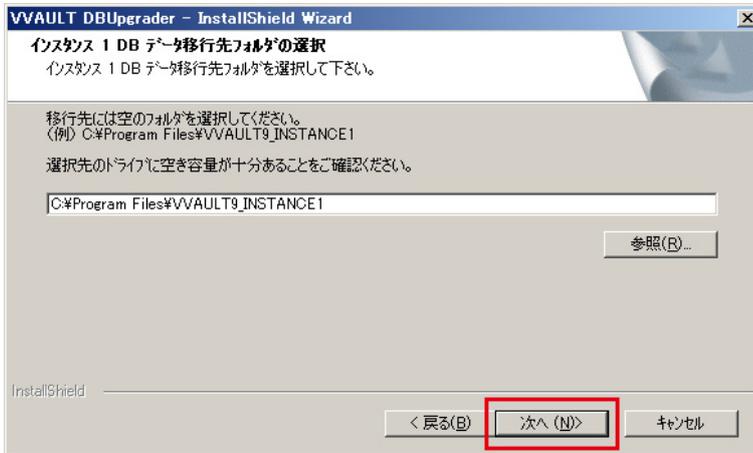
## DBのサイズとコンテンツ数

DBが使用しているディスクサイズとDBのレコード件数が表示されます。

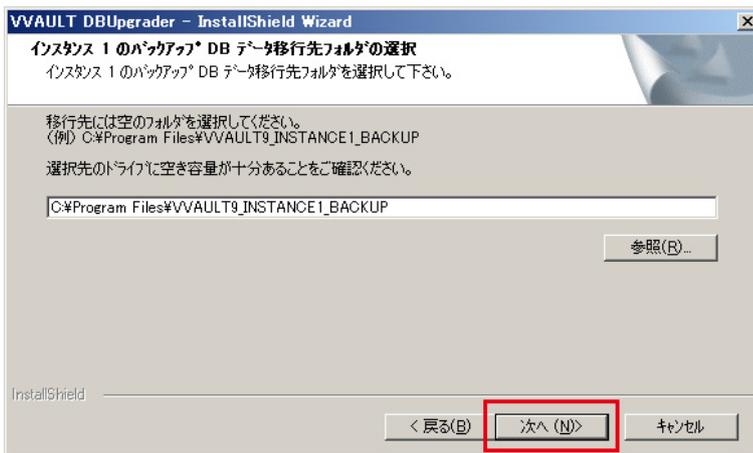
この情報を元に、アップグレードに要する時間を推測できます。詳しくはナレッジベースで「VVAULT DB Upgrader」を検索してください。

## 手順解説

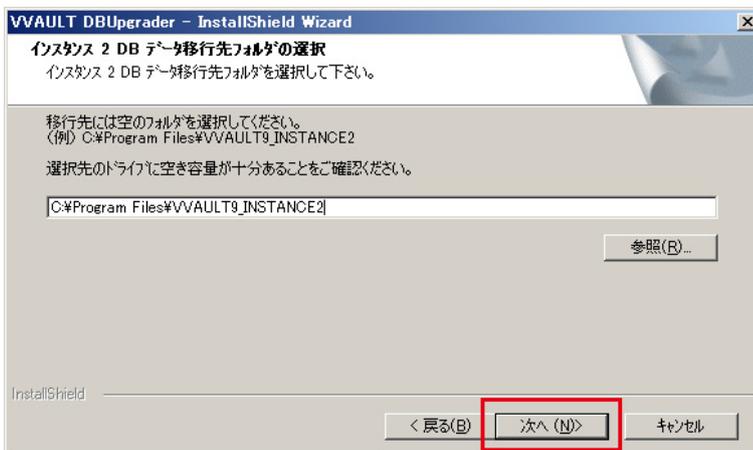
- ⑥ インスタンス 1 (マスタモード) 用 DB データの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑦ インスタンス 1 のバックアップ用 DB データの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。

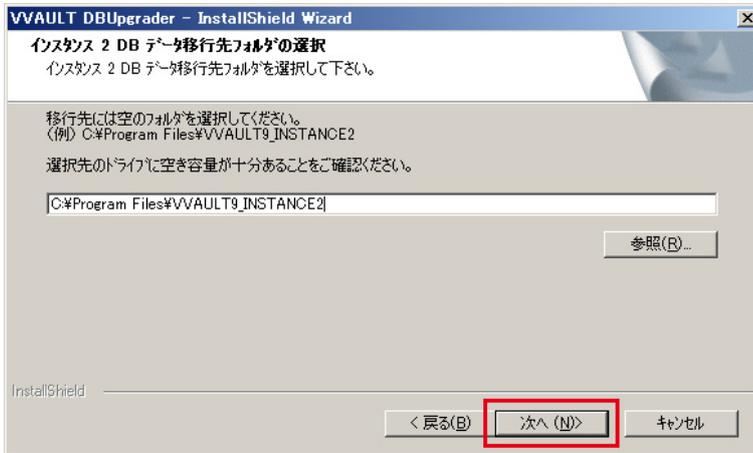


- ⑧ インスタンス 2 (レプリカモード) 用 DB データの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



## 手順解説

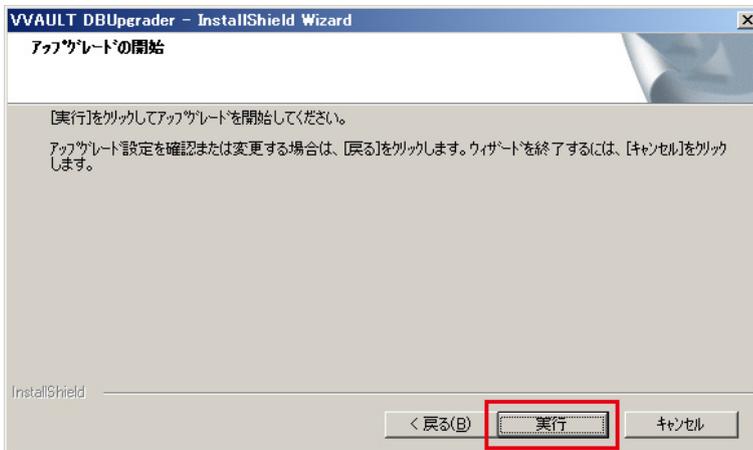
- ⑨ インスタンス 2 バックアップ用 DB データの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑩ アップグレード方法を選択します。



- ⑪ 「アップグレード診断」を選択し「実行」ボタンをクリックします。



## ワンポイント

## 一括アップグレード

選択したアップグレードを連続して行い、全ての処理が完了するまで中断できません。

## 各DB毎に確認アップグレード

インスタンス、バックアップなど機能のアップグレード完了後に表示される確認ダイアログで、処理の継続、中断を選択できます。

## アップグレード診断

アップグレードが可能か診断を行います。

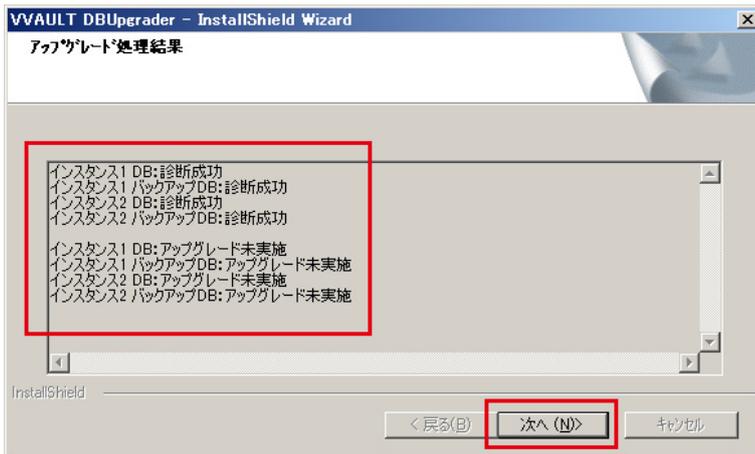
手順解説



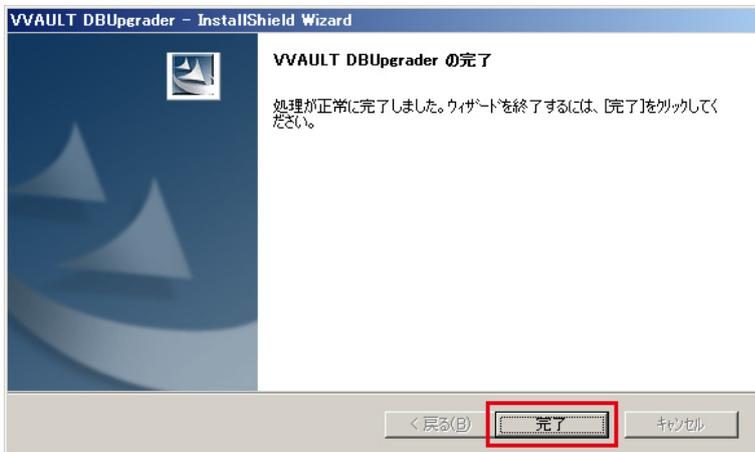
⑫ アップグレードの診断が開始されます。



⑬ アップグレードの診断結果が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。



⑭ 「完了」ボタンをクリックするとアップグレード診断が完了します。



## 2 DBをアップグレードする

---

VVAULT DB Upgrade Manual (7 to 9)

2-1 アップグレード手順	16
2-2 アップグレード実行	19
2-3 VVAULT 9.1.0以降での復元インストール	24
2-4 VVAULTのアンインストール	27

## 2-1

# アップグレード手順

VVAULT 7.16.x、7.17.x (以下、「VVAULT 7系」という)のDBアップグレードを行い、VVAULT 9.1.0 (以下、「VVAULT 9系」という)以降に復元インストールする手順を説明します。

環境に沿った手順でアップグレードを行ってください。

### レプリケーション環境のアップグレードを行う

- ① メインサーバー、スタンバイサーバーで「VVAULT DB Upgrader」を実行し、アップグレードの診断を行います。「[1-4 アップグレードの診断 \(P.10\)](#)」をご覧ください。診断結果が成功した場合、アップグレードしたDBを保存するために、現在使用されている各DBサイズ以上の空き容量を準備します。
- ② メインサーバーの管理コンソールから、「Unmount」に設定、「ティアリング」、「フォルダクォータ」、「バックアップ」、「レプリケーション」、「ライブリカバリ」機能を「OFF」にします。TMS機能を使用している場合、TMS機能の「TMS待受」を「OFF」に設定後、指定している「ポート番号」を別の番号に変更してください。
- ③ スタンバイサーバーの管理コンソールから、「バックアップ」「レプリケーションサービス」を「OFF」にします。また、「レプリケーション」の「ポート番号」を「VVAULT 9系」で使用したい場合、「サーバー証明書」をアンインストールしてください。
- ④ メインサーバー、スタンバイサーバーで「VVAULT DB Upgrader」を実行し、アップグレードを行います。「[2-2 アップグレード実行 \(P.19\)](#)」をご覧ください。
- ⑤ メインサーバー、スタンバイサーバーで、VVAULT 9系の復元インストールでアップグレードしたDBを指定します。「[2-3 VVAULT 9.1.0以降での復元インストール \(P.24\)](#)」をご覧ください。
- ⑥ VVAULT 9系インストール後、メインサーバー、スタンバイサーバーの管理コンソールにログインし、アップグレード前に使用していたライセンスを登録します。
- ⑦ スタンバイサーバーで「サーバー証明書」をインストールします。
- ⑧ これ以降の操作を行うと、アップグレード前の環境には戻れませんのでご注意ください。VVAULT 7系に戻す場合は、「[レプリケーション環境のアップグレードを中止しVVAULT 7系に戻す \(P.17\)](#)」をご覧ください。
- ⑨ スタンバイサーバーの管理コンソールから、「バックアップ」「レプリケーションサービス」を「ON」にします。
- ⑩ メインサーバーの管理コンソールから、「レプリケーション」の「ポート番号」をスタンバイサーバーで変更した「ポート番号」に変更します。TMS機能を使用している場合、TMS機能の「ポート番号」を変更前のポート番号にし「適用」をした後「TMS待受」を「ON」します。
- ⑪ メインサーバーの管理コンソールから、レプリケーションの「接続テスト」を行い、接続に成功したら、「レプリケーション」ボタンを「ON」にします。
- ⑫ メインサーバーの管理コンソールから、「Mount」に設定、「ティアリング」、「フォルダクォータ」「バックアップ」、「ライブリカバリ」機能を「ON」にします。
- ⑬ メインサーバーの仮想ドライブのデータを確認します。
- ⑭ アップグレード前の「VVAULT 7系」をアンインストールします。「[2-4 VVAULTのアンインストール \(P.27\)](#)」をご覧ください。

## レプリケーション環境のアップグレードを中止し VVAULT 7 系に戻す

- ① VVAULT 9 系をアンインストールします。「[2-4 VVAULT のアンインストール \(P.27\)](#)」をご覧ください。
- ② VVAULT 7 系で使用しているサービスの「スタートアップの種類」を「無効」または「手動」から「自動」に変更し「開始」します。「[1-2 アップグレードする際の注意点 \(P.7\)](#)」をご覧ください。
- ③ スタンバイサーバーの管理コンソールから「サーバー証明書」をインストールします。
- ④ 「レプリケーションサービス」を「ON」にします。
- ⑤ メインサーバーの管理コンソールから、レプリケーションの「接続テスト」を行い、接続に成功したら「レプリケーション」ボタンを「ON」にします。
- ⑥ メインサーバーとスタンバイサーバーで「OFF」にした機能を「ON」にします。
- ⑦ 仮想ドライブのデータを確認します。

## 単一サーバー環境のアップグレードを行う

- ① メインサーバーで「VVAULT DB Upgrader」を実行し、アップグレードの診断を行います。「[1-4 アップグレードの診断 \(P.10\)](#)」をご覧ください。診断結果が成功した場合、アップグレードした DB を保存するために、現在使用されている各 DB サイズ以上の空き容量を準備します。
- ② メインサーバーの管理コンソールから、「Unmount」に設定、「ティアリング」、「フォルダクォータ」、「バックアップ」、「レプリケーション」、「ライブリカバリ」機能を「OFF」にします。
- ③ メインサーバーで「VVAULT DB Upgrader」を実行し、アップグレードを行います。「[2-2 アップグレード実行 \(P.19\)](#)」をご覧ください。
- ④ メインサーバー、VVAULT 9 系の復元インストールでアップグレードした DB を指定します。「[2-3 VVAULT 9.1.0 以降での復元インストール \(P.24\)](#)」
- ⑤ VVAULT 9 系インストール後、メインサーバーの管理コンソールにログインし、アップグレード前に使用していたライセンスを登録します。
- ⑥ これ以降の操作を行うと、アップグレード前の環境には戻れませんのでご注意ください。VVAULT 7 系に戻す場合は、「[単一サーバー環境のアップグレードを中止し VVAULT 7 系に戻す \(P.18\)](#)」をご覧ください。
- ⑦ メインサーバーの管理コンソールから、②で停止した機能を「ON」、「Mount」に設定します。
- ⑧ メインサーバーの仮想ドライブのデータを確認します。
- ⑨ アップグレード前の「VVAULT 7 系」をアンインストールします。「[2-4 VVAULT のアンインストール \(P.27\)](#)」をご覧ください。

## 単一サーバー環境のアップグレードを中止し VVAULT 7系に戻す

- ① VVAULT 9 系をアンインストールします。「[2-4 VVAULT のアンインストール \(P.27\)](#)」をご覧ください。
- ② VVAULT 7系で使用しているサービスの「スタートアップの種類」を「無効」または「手動」から「自動」に変更し「開始」します。「[1-2 アップグレードする際の注意点 \(P.7\)](#)」をご覧ください。
- ③ VVAULT の管理コンソールから、「OFF」にした機能を「ON」にします。
- ④ 仮想ドライブのデータを確認します。

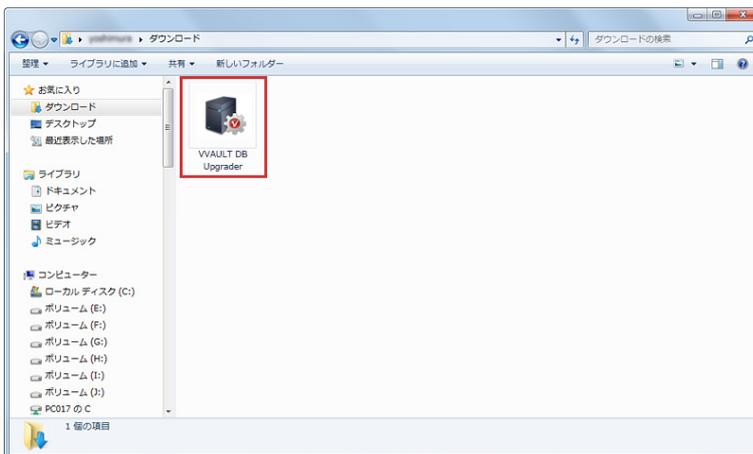
## 2-2

## アップグレード実行

一括アップグレードは、選択したDBを連続してアップグレードをします。  
一度開始すると、処理が完了するまで処理の中断はできません。

## 手順解説

- ① 本製品のVVAULT DB Upgraderを実行します。



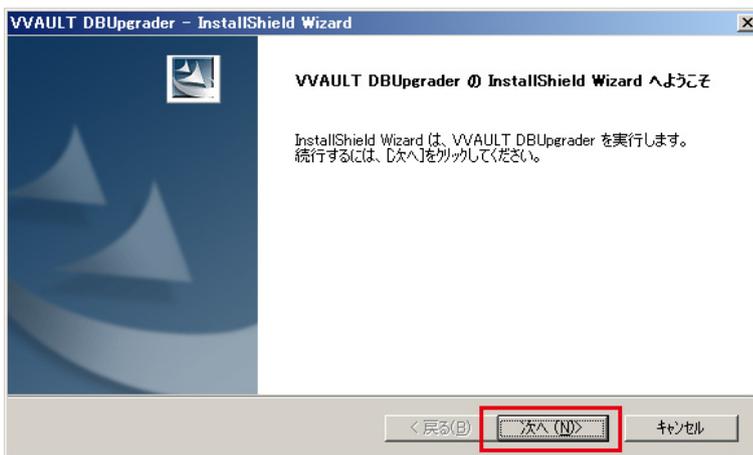
## ⚠️ ご注意

VVAULT DB Upgraderを実行した際、「Microsoft .NET Framework 4.5」がインストールされていない環境はインストール画面が表示されます。本製品の動作に必要なソフトウェアの為、ウィザードに従ってインストールしてください。

## ⚠️ ご注意

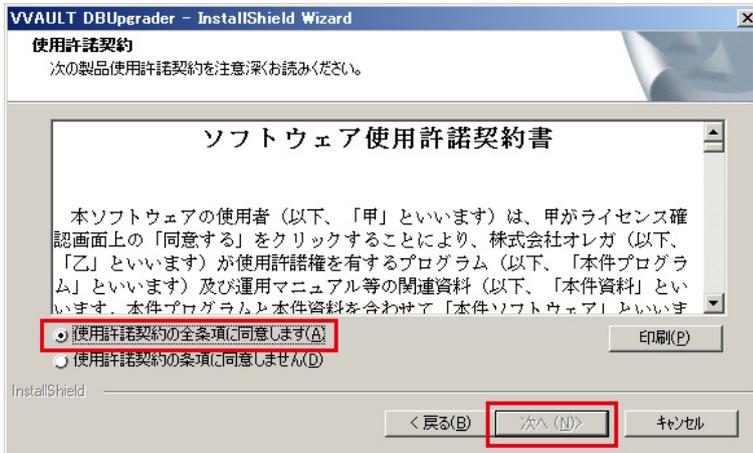
UACが有効の場合、VVAULT DB Upgraderは管理者として実行する必要があります。またドメインメンバーのコンピュータにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

- ② アップグレードのウィザード開始画面にて「次へ」ボタンをクリックします。

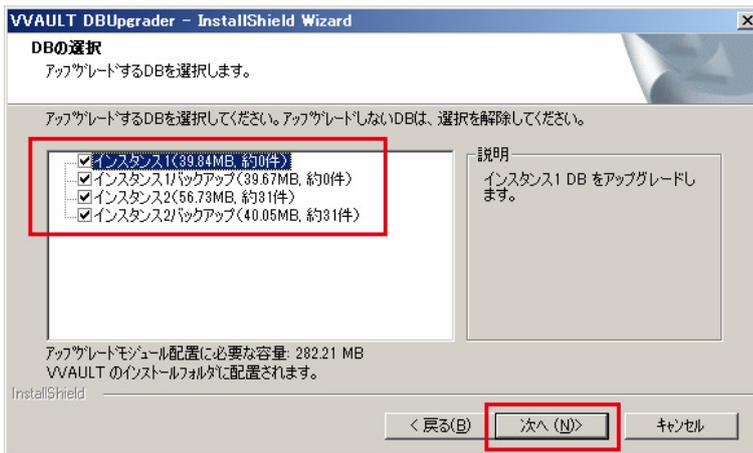


## 手順解説

- ③ 使用許諾契約を確認後、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



- ④ アップグレードする DB を選択し「次へ」をクリックします。



- ⑤ 確認ダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。



## ワンポイント

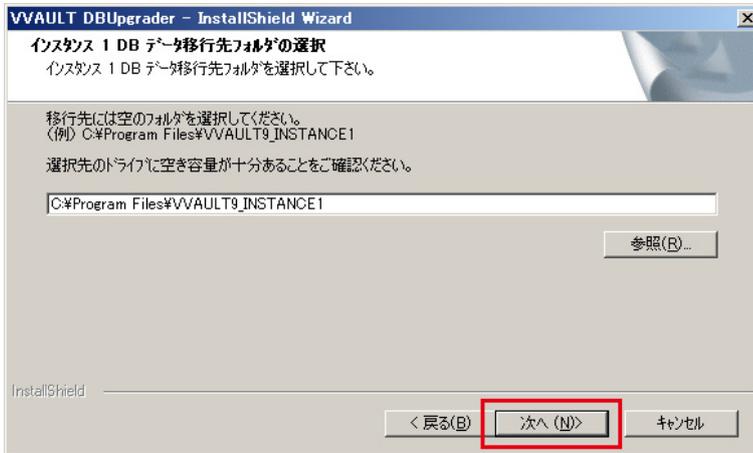
## DBのサイズとコンテンツ数

DBが使用しているディスクサイズとDBのレコード件数が表示されます。

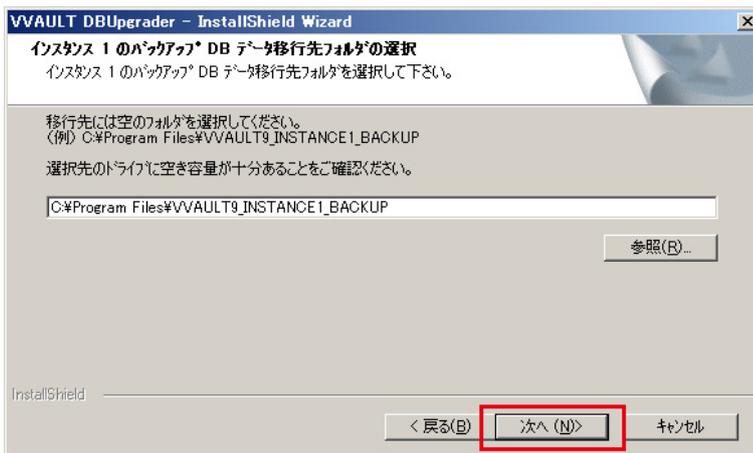
この情報を元に、アップグレードに要する時間を推測できます。詳しくはナレッジベースで「VVAULT DB Upgrader」を検索してください。

## 手順解説

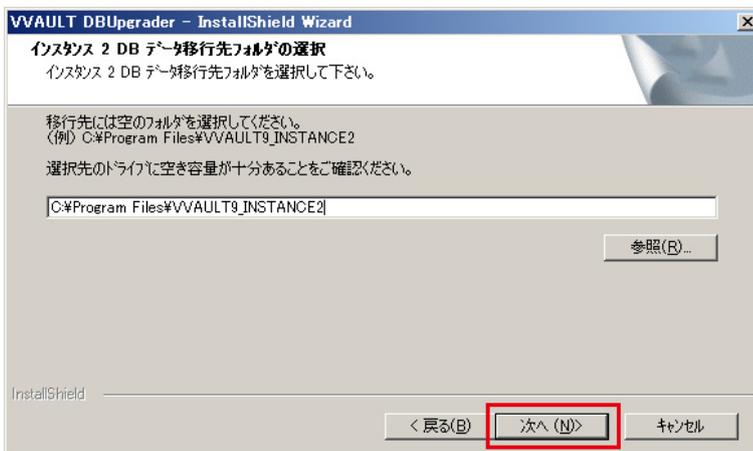
- ⑥ インスタンス1(マスタモード)用DBデータの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑦ インスタンス1のバックアップ用DBデータの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。

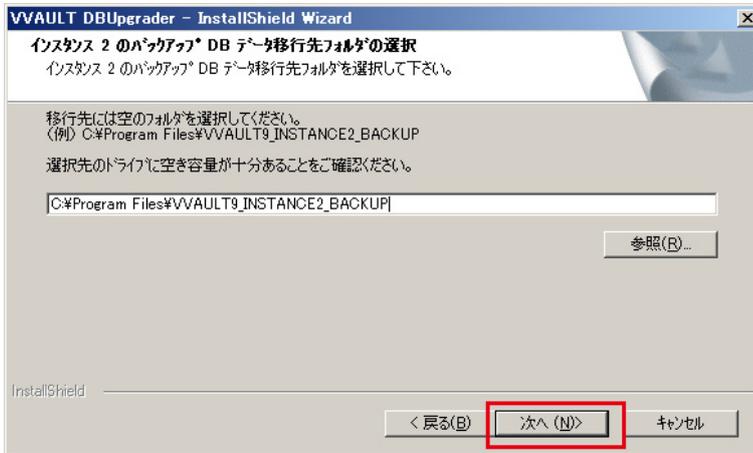


- ⑧ インスタンス2(レプリカモード)用DBデータの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



## 手順解説

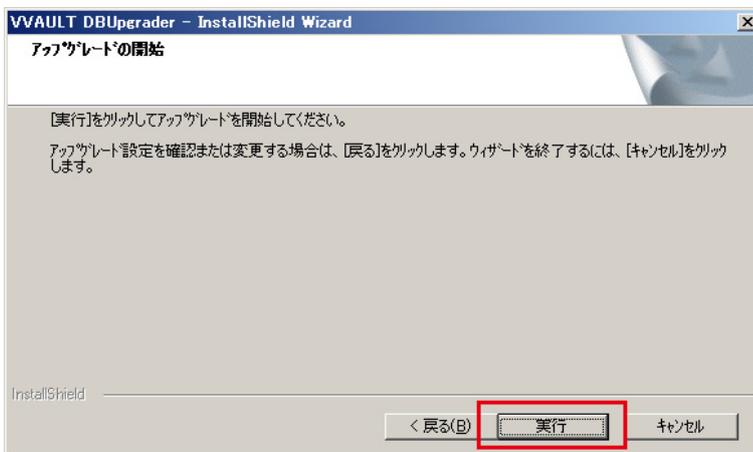
- ⑨ インスタンス 2 のバックアップ用 DB データの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑩ アップグレード方法を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑪ 確認ダイアログが表示されるので、「実行」ボタンをクリックします。



## ワンポイント

## 一括アップグレード

選択したアップグレードを連続して行い、全ての処理が完了するまで中断できません。

## 各DB毎に確認アップグレード

インスタンス、バックアップなど機能のアップグレード完了後に表示される確認ダイアログで、処理の継続、中断を選択できます。

## アップグレード診断

アップグレードが可能か診断を行います。

## 手順解説

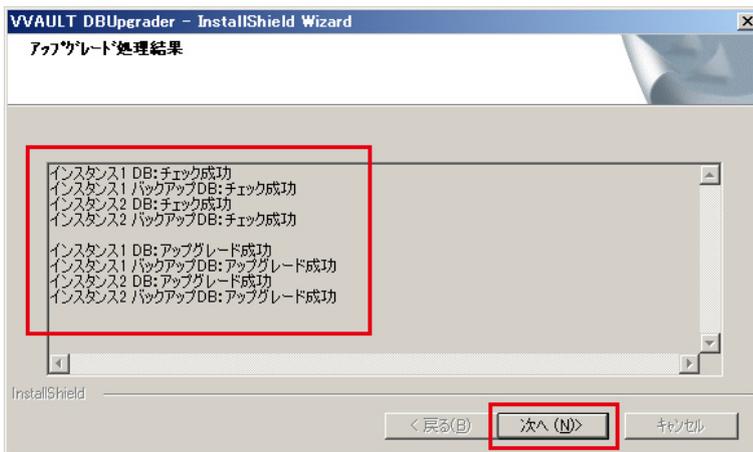
⑫ アップグレードが開始されます。



## ワンポイント

「各 DB 毎に確認アップグレード」を選択した場合、各 DB のアップグレードが完了する度に、継続または中断を選択するダイアログが表示されます。中断した場合は、処理全体が中断され結果が表示されます。

⑬ アップグレード結果が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。



⑭ 「完了」ボタンをクリックするとアップグレードが完了します。



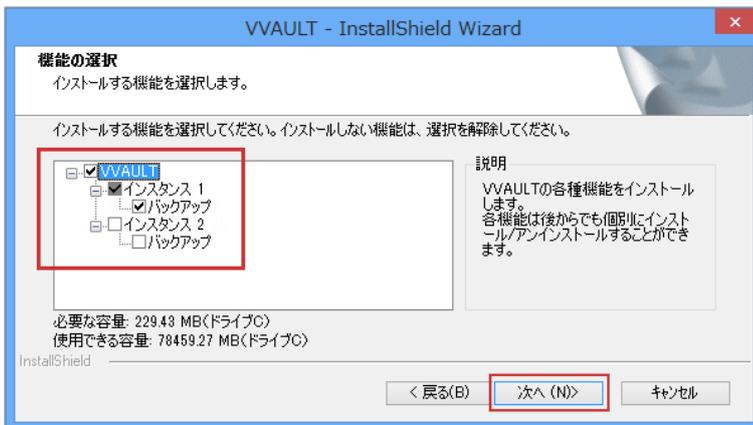
## 2-3

## VVAULT 9.1.0以降での復元インストール

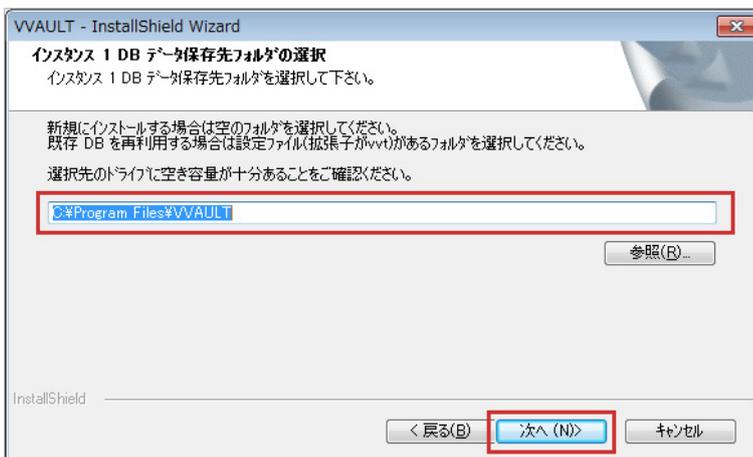
VVAULT 9.1.0 以降のインストール時に、アップグレードしたDBデータを使用する「復元インストール」をすることで、9.1.0 以降の環境で使用可能な状態となります。

## 手順解説

① インストーラを実行し「機能の選択」で機能を選択し「次へ」ボタンをクリックします。

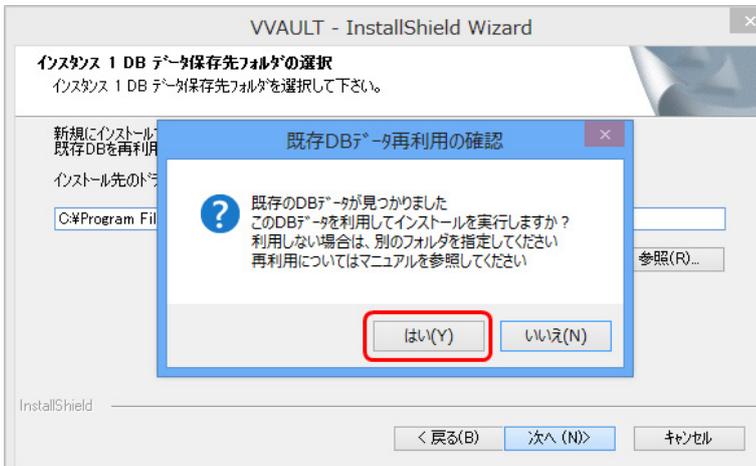


② 「仮想ドライブ DB データ保存先フォルダの選択」で、アップグレードしたDBデータの保存先を選択します。

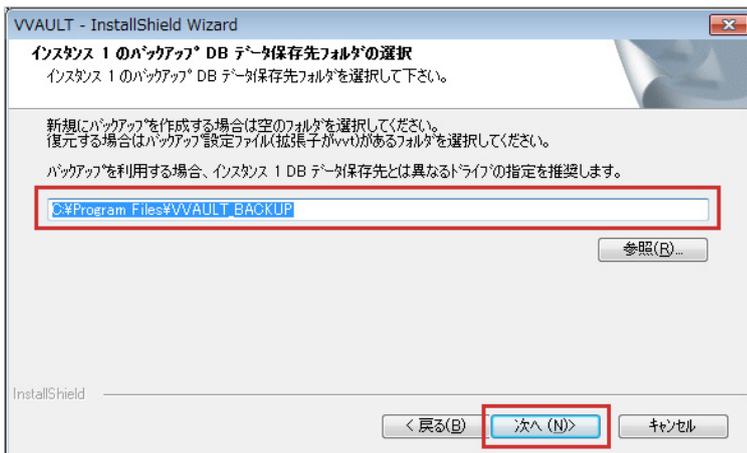


## 手順解説

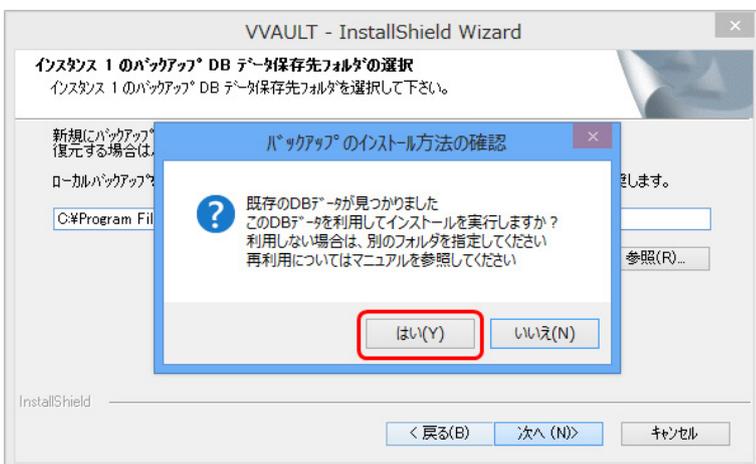
- ③ 「既存 DB データ再利用の確認」ダイアログが表示されますので、「はい (Y)」ボタンをクリックします。



- ④ 「バックアップ用 DB データ保存先フォルダの選択」で、アップグレードした DB のパスを選択します。

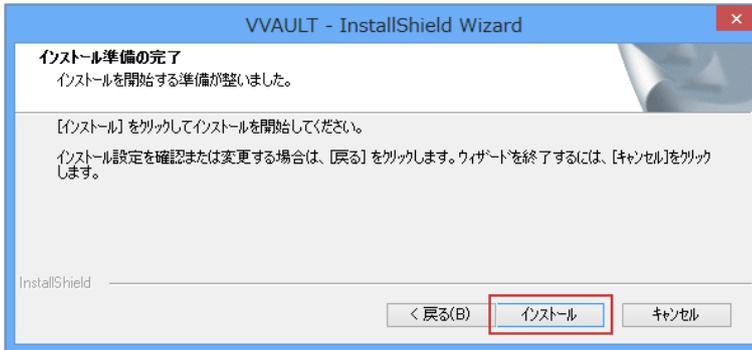


- ⑤ 「既存 DB データ再利用の確認」ダイアログが表示されますので、「はい (Y)」ボタンをクリックします。



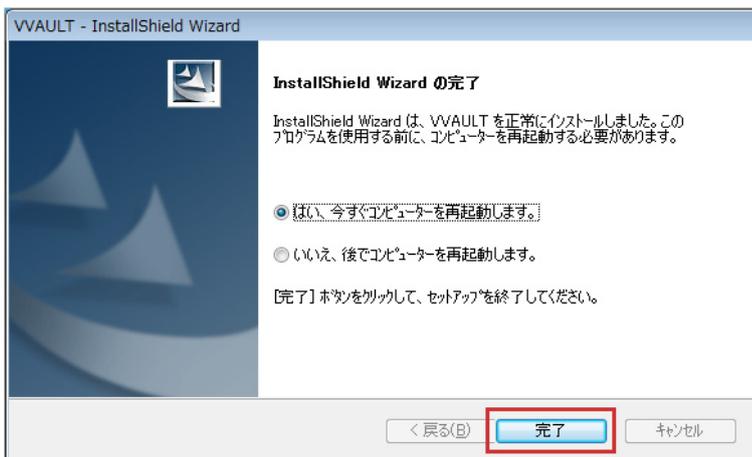
## 手順解説

- ⑥ 「インストール準備の完了」にて「インストール」ボタンをクリックします。



- ⑦ インストール完了後、「完了」ボタンをクリックする前に、VVAULT7.16.xのインストールフォルダの直下にある「Mail.conf」をVVAULT9.1.0以降のインストールフォルダ直下に上書きコピーします。

- ⑧ コピーが完了後、「完了」ボタンをクリックします。



**⚠️ ご注意**

再起動後にコピーした場合は、Windowsのサービスより「VVAULT9 Instance1 Service」を再起動します。

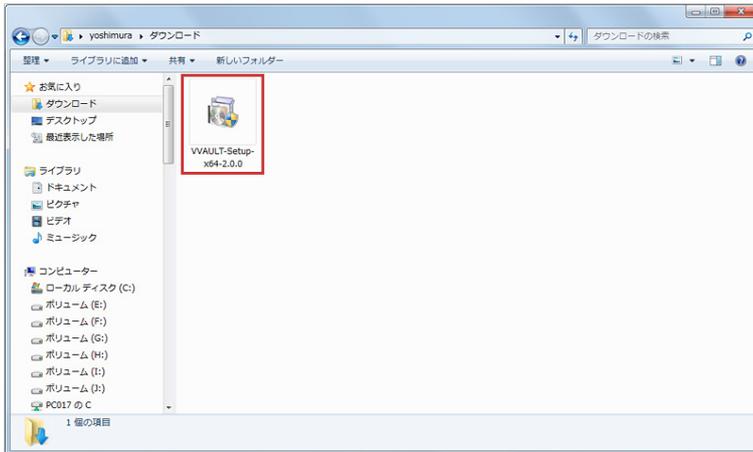
## 2-4

## VVAULTのアンインストール

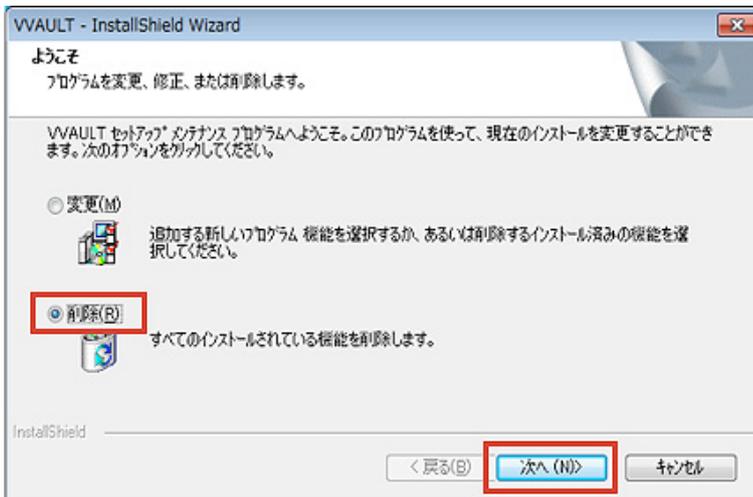
VVAULT をアンインストールするには、以下の手順に従ってください。

### 手順解説

- ① インストールされているVVAULTと同じバージョンのインストーラーを実行します。



- ② 以下の画面が表示されますので、「削除」を選択し「次へ」をクリックします。

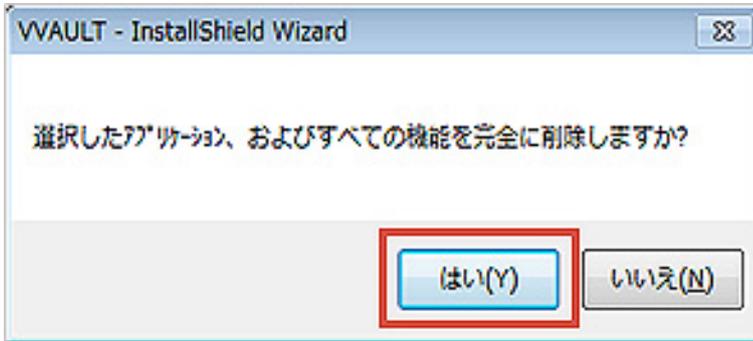


### ワンポイント

インストールに使用したインストーラーが無い場合は、コントロールパネルの「プログラムと機能」からVVAULTを選択し「変更」を実行することでも起動することができます。尚「プログラムと機能」と同等の機能はOSによって名称や操作が異なります。

## 手順解説

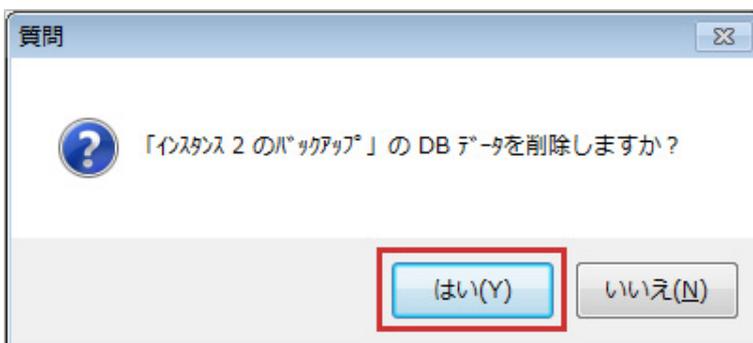
- ③ 「既存 DB データ再利用の確認」ダイアログが表示されますので、「はい (Y)」 ボタンをクリックします。



- ④ アンインストールが開始されます。



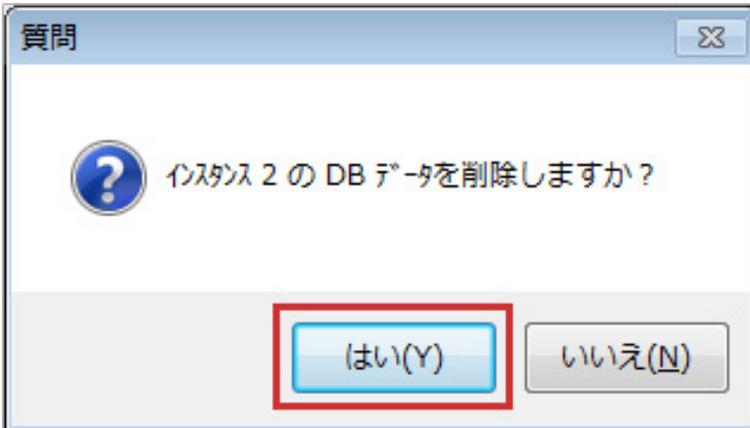
- ⑤ インスタンス2のバックアップを使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、「はい」をクリックしてください。

**⚠️ ご注意**

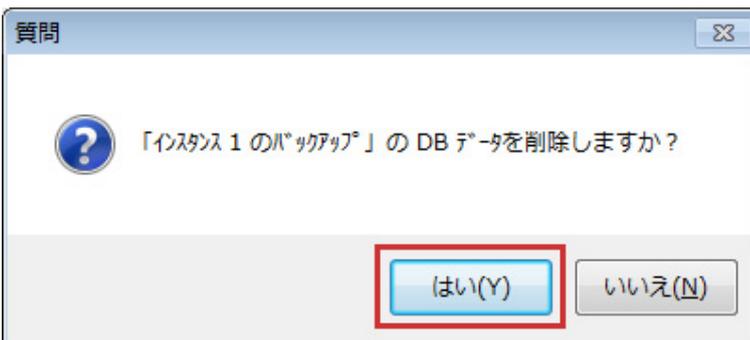
復元インストールを行う予定がある場合は、DB データが必要となりますので削除しないでください。

## 手順解説

- ⑥ インスタンス2を使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



- ⑦ インスタンス1のバックアップを使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



**⚠️ ご注意**

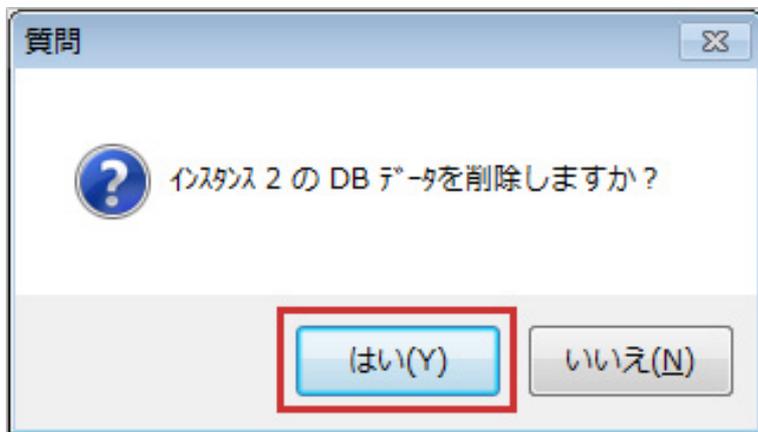
復元インストールを行う予定がある場合は、DB データが必要となりますので削除しないでください。

- ⑧ 途中、以下のダイアログが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



手順解説

⑨ 「完了」 ボタンをクリックするとアンインストールが完了します。



**⚠️ ご注意**

アンインストールの完了時もインストール時と同様、必ずコンピューターを再起動してください。

# 3 警告・障害の解決方法

VVAULT DB Upgrade Manual (7 to 9)

3-1 警告・障害 一覧 ————— 32

## 3-1

## 警告・障害 一覧

## DB upgrader 関連

## 警告

メッセージ	VVAULTがインストールされていません。[0000]
対応方法	VVAULTをインストールしてください。

## 警告

メッセージ	VVAULTのバージョンが「インストールバージョン」のため、DBアップグレードできません。[0001]
対応方法	VVAULTのバージョン7.16.0以上にアップデート後、「VVAULT DB Upgrader」を実行してください。

## 警告

メッセージ	「ユーザ名」でログインする際、エラーになりました。マニュアルを確認ください。[0008] 「ユーザ名」でログインする際、予期しないエラーになりました。マニュアルをご確認ください。[0009] 「ユーザ名」が存在しません。マニュアルをご確認ください。[0010]
対応方法	「VVAULT DB Upgrader」をVVAULT Userではなく、ローカルアカウントのログインユーザで実行します。※1 【手順】 ① VVAULT 7.16.x、7.17.xインストール先¥pgsqlフォルダにローカルアカウントのログインユーザをフルコントロール権限で付与します。※2、3 ② VVAULT7.16.xのデータ保存フォルダ (VVAULTData、BACKUPData、DRData、DRBackupData) にローカルアカウントのログインユーザをフルコントロール権限で付与します。この時、グループで権限ではなく、ユーザで権限を与えてください。※2、3 ③ 「VVAULT DB Upgrader」実行する際、にコマンドライン引数 (/without-vvvaultuser) を与えて実行します。 ※1 ログインユーザはWindowsのローカルアカウントのログインユーザ ※2 サブフォルダ、ファイルすべてに権限がついていることを確認ください。 ※3 ①、②の作業でサブフォルダ、ファイルに権限が付いていない場合は、ローカルアカウントのログインユーザの所属しているグループに適用先が「このフォルダのみ」になっている特殊権限がついている可能性があります。その権限を外してから実行ユーザにフルコントロール権限を付与してください。

## 警告

メッセージ	「サービス名」サービス停止に失敗しました。[1000] サービス停止時に予期しないエラーは発生しました。[1002]
対応方法	VVAULTの「サービス名」が停止できなかった場合に表示されます。 Windowのサービスより停止に失敗した「サービス名」を手動で停止をします。 手動で停止できない場合、OSの再起動をします。

## 警告

メッセージ	VVAULTのバージョンが「インストールバージョン」のため、データをアップグレードできません。[1003]
対応方法	VVAULTのバージョンが「VVAULT DB Upgrader」対応のバージョンではない場合に表示されます。 VVAULTのバージョンを7.16.0以上にアップデートしてから「VVAULT DB Upgrader」をしてください。

## 警告

メッセージ	「機能名」の診断で予期しないエラーが発生しました。[1008]
対応方法	<p>「VVAULT DB Upgrader」が実行可能か診断時にエラーになった場合に表示されます。</p> <p><b>【手順】</b></p> <p>① VVAULTのデータベースサービスのプロパティからログオンユーザを確認します。</p> <p>② VVAULTUserかVVAULTUserで始まるユーザの場合は……A.実行ユーザがVVAULTUserの場合へ それ以外のユーザの場合は……B.実行ユーザがローカルアカウントのログインユーザの場合へ</p> <p><b>A.実行ユーザがVVAULTUserの場合</b></p> <p>サポートにお問い合わせください。<a href="https://vvault.jp/customers/">https://vvault.jp/customers/</a></p> <p><b>B.実行ユーザがローカルアカウントのログインユーザの場合</b></p> <p>① VVAULT 7.16.xインストール先¥pgsqlフォルダにローカルアカウントのログインユーザをフルコントロール権限で付与します。※2、3</p> <p>② VVAULT 7.16.xのデータ保存フォルダ(VVAULTData、BACKUPData、DRData、DRBackupData)にローカルアカウントのログインユーザをフルコントロール権限で付与します。この時、グループで権限ではなく、ユーザで権限を与えてください。※2、3</p> <p>③ 「VVAULT DB Upgrader」実行する際、にコマンドライン引数 (/without-vvaultuser) を与えて実行します。</p> <p>※1 ログインユーザはWindowsのローカルアカウントのログインユーザ  ※2 サブフォルダ、ファイルすべてに権限がついていることを確認ください。  ※3 ①,②の作業でサブフォルダ、ファイルに権限が付いていない場合は、ローカルアカウントのログインユーザの所属しているグループに適用先が「このフォルダのみ」になっている特殊権限がついている可能性があります。その権限を外してから実行ユーザにフルコントロール権限を付与してください。</p>

## 警告

メッセージ	「機能名」のアップグレードで予期しないエラーが発生しました。サポートにお問い合わせください。[1009]
対応方法	<p>「VVAULT DB Upgrader」が実行中にエラーになった場合に表示されます。</p> <p>データ移行先の空き容量を確認ください。</p> <p>データ移行先の空き容量が十分にある場合、サポートお問い合わせください。<a href="https://vvault.jp/customers/">https://vvault.jp/customers/</a></p> <p>サポートに必要なログが、デスクトップに「VVAULT_DB_Upgrader」名のフォルダに保存されています。</p>

## 警告

メッセージ	<p>以下の診断でエラーが発生しました。詳細はマニュアルを参照してください。[9000]</p> <p>選択した機能1</p> <p>選択した機能2…</p>
対応方法	<p>選択した機能の内、アップグレードの診断でエラーになった機能がある場合に表示されます。</p> <p>サポートにお問い合わせください。<a href="https://vvault.jp/customers/">https://vvault.jp/customers/</a></p> <p>サポートに必要なログが、デスクトップに「VVAULT_DB_Upgrader」名のフォルダに保存されています。</p>

